



企画展

とわだの縄文



令和4年

1/8 (土) ▶ 5/8 (日)

午前9時～午後5時 ※月曜日休館

観覧料 無料

十和田市郷土館

十和田市大字奥瀬字中平61-8

☎ 0176-72-2340



東北新幹線「七戸十和田駅」・「八戸駅」から十和田観光電鉄バス乗車「十和田市中央」下車、焼山行き「西コミュニティセンター前」下車、徒歩1分

はじめに

十和田市には、100 を超える縄文遺跡があり、発掘調査等によりその様子が徐々にですが明らかにされてきました。縄文時代は、人々が十和田市をはじめて拓いた時代です。この展示では、7 千年以上の長きわたり、厳しくも豊かな自然と共生してきた人々について、ご紹介いたします。

① 氷河期にはじまった縄文時代／「小田の埋没林」(約 15000 年前)

小田の埋没林は縄文時代のはじめ（約 15000 年前）に大噴火した十和田火山（十和田湖）の火砕流により、なぎ倒され埋没したものです。

出土した樹木を調査した結果、カラマツ属、トウヒ属、モミ属などからなる亜寒帯針葉樹の森林が広がっており、縄文時代のはじまりが現在よりもずっと寒冷で、氷河期の中にあつたことがわかりました。



小田の埋没林

② 定住をはじめた人々／「寺上遺跡」(約 9000 年前)

市内で、ヒトの生活のあとが残されるようになるのは、縄文時代の早期からです。寺上遺跡から出土した土器は、底が尖っており、初期の縄文土器に多くみられるものです。

縄文時代早期は、温暖化が進み、ムラがつくれるなど定住が一般化し、水産物や木の実などの利用など縄文時代の基本的な暮らしが確立した時代とされています。



縄文早期の尖底土器

③ 縄文海進期の遺跡／「山ノ外遺跡」(約 6500 年前)

山ノ外遺跡は立崎地区・砂土路川右岸の台地上に立地します。縄文海進期・前期前葉の尖底土器 15 個体以上のほか、石鏃、石匙、すり石、石皿、土錘などがまとまって出土しました。縄文時代の早期～前期は、現在よりも気温が高く、海水面が上昇。小川原湖さらには遺跡が立地する砂土路川の下流域も海となっており、遺跡から 2 km 下流側では縄文時代前期の貝塚が発見されています。

④ 大噴火を超えて／「寺上遺跡」(約 6000 年前)

約 6000 年前、十和田火山（十和田湖）が噴火します。この噴火により十和田湖東側の広範な地域には多量の噴出物が降下し、生態系や人間の生活に大きな影響を与えたとされます。

寺上遺跡は市街地の約 3km、奥入瀬川左岸の台地上にある遺跡です。同遺跡からは大噴火から間もない時期の円筒文化初期の土器や石器が出土しており、噴火後の人々の様子を垣間見ることができます。



火山の噴出物
と出土土器

⑤ 明戸遺跡の大型住居跡／「明戸遺跡」(約5000年前)

大噴火の後、市内では集落遺跡が増えていきます。明戸遺跡は市街地の南約 10 km、後藤川左岸にあります。過去 5 回の調査で縄文時代前期～後期の集落跡、晩期の墓地の跡が発見されました。平成 20 年の調査では、前期末葉期の大型堅穴住居跡がみつき、その大きさは確認された部分だけで長径 13m 以上あります。通常の堅穴住居跡とはあきらかに大きさが違うことから、集会所や共同作業所、共同住居などとして使用されたのではないかと推定されています。



大型住居跡の出土遺物

⑥ 中期のムラ／「明戸遺跡」(約 5000～約4000年前)

明戸遺跡では、前期に引続き中期においても集落が築かれました。特に中期初頭期は、堅穴住居跡、貯蔵穴、土坑墓、埋設土器等が発見されており、多様な要素でムラが構成されていることが判明しています。

堅穴住居は炉がきられており、地床炉、石組炉、埋甕炉がみられました。また、火事にあつた住居跡からは、多量のクリ・クルミ・トチが出土し、縄文人の食料事情を知る上で貴重です。



堅穴住居跡と遺物出土状況

⑦ 後期のムラ／「中村平遺跡」(約 4000 年前)

中村平遺跡は市街地の南方約 6 km、藤島川支流右岸の台地上に立地しています。

平成元(1989)年に発掘調査がおこなわれ、縄文時代後期初頭の竪穴住居跡が発見されたほか、土器、石鏃、すり石、土製品などが出土しています。縄文時代後期の土器は、深鉢のほかにも浅鉢、壺など、様々な器種がみられ、沈線やすり消し縄文などで表面をかざるようになります。



出土土器

⑧ 再葬甕棺墓／藤島・外山ノ敷(約4000 年前)

東北北部では、縄文時代後期初頭期に、再葬甕棺墓と呼ばれる特殊な埋葬風習が出現します。遺体を一時的に埋葬、一定期間放置し、骨だけとなった遺体を、専用につくった甕棺におさめて埋葬するもので、五戸町の薬師前遺跡では実際に人骨が残っているものが出土しています。展示している甕棺(表紙中央)は昭和41年に藤島地区で発見されたものです。

⑨ 晩期の墓地とまつり／「明戸遺跡」(約 5000～約4000年前)

縄文時代晩期は、精巧な土器や遮光器土偶などで有名です。

明戸遺跡では、晩期の土坑墓17基が発見され、その内部からは人骨や装身具、赤色ベンガラがみつかっています。また、包含層からは、深鉢、鉢、浅鉢、台付鉢、壺、皿、高坏、注口、香炉などの土器が150個体以上、土偶、岩偶、岩版、土版、石棒、石剣、勾玉のほか、シカ、イノシシ、クジラ等の焼骨が出土しており、まつりや儀礼が行なわれた跡とも考えられています。



土坑墓



出土遺物